

「**砂漠に雨のプロジェクト**」(協同組合通信/日和見論弾)平成20年1月9日

NHK テレビの環境トーク番組で「**砂漠に雨を降らせる男**」があった。

稲永さんに運命のなせる不思議で、サウジアラビアでの助教授の話が舞い込んだ。赴いたサウジアラビアの砂漠で不思議な光景に目を見張ったという。

モスクの側には大概オアシスがあり、ナツメヤシの木が周辺を囲む泉があるのだが、見かけた場所は、全くの砂漠(礫漠か土漠かは不祥)だった。奇跡的に、一本のナツメヤシの木だけが生え、果実がたわわで、蜂などの虫が飛び交っていた。

「何で、このナツメヤシだけが厳しい砂漠で、生きて育っているのだろうか？」  
ここから、鳥取大学研究者の閃きと謎解きが始まる。

木が育つには十分な水が必要だ　　きっと、この木は地中深くに根を延ばしているに違いない　　砂漠でも、深く掘り進めれば水に当たるのでは　　それを実証できれば、砂漠にもきっと植物は育つ

その後、鳥取大学などと共同研究したのが「**深根栽培**」。栄養土を紙で囲んだ細長い筒を開発。紙は砂漠の土になり環境にも問題ない。次に、その地に適す植物の根が狭い筒の中で、まっすぐに延び、砂漠の下の水脈に当たるまでの工夫をこらす。ついに、ナツメヤシで成功。

砂漠に植えた植物が林や森へと育つ条件として水の循環システムが必要。彼は故国日本海の冬の季節風がもたらす積雪モデルを思い出した。幸いにも、サウジアラビアは国土の西側を広大な**紅海**に囲まれている。しかも、沿岸近くに急峻な山々が連なっている。海が近い山が高い。それに、海からは湿った風が吹いてくる。

海浜部に「**マングローブ**」、少し離れた地に、サウジの木「**ナツメヤシ**」そして、山間部には長期計画(文科省研究費のプロジェクト)で植林し、水蒸気の発生源の森へと育てる。

見事にマングローブとナツメヤシの林や森から水蒸気が上昇し、海から吹く湿って冷たい大気にぶつかり、山腹を一気に滑昇し降水をもたらす、水の循環システムネットワークが成功した。

全ての砂漠地帯に有効とはいえないが、沿岸部の砂漠化の防止には、素晴らしい実証モデルプロジェクトの成功である。

( **気象情報システム株式会社 高津敏** )